

なかがわ

広報

2015. 12



町のイメージキャラクター
「なかちゃん」



No.123

- 那珂川町合併10周年記念姉妹都市交流事業 2
- 第34回ゆりがねマラソン大会 5
- ノロウイルス・インフルエンザを予防しよう! 6
- なかがわ元気フェスタ2015 10
- マイナンバーのお知らせ 17



第34回ゆりがねマラソン大会

広報 展示室

第123回

企画展 開館15周年・那珂川町合併10周年記念 江戸名所と広重展

今回の展覧会は初代歌川広重(1797～1858)を中心に展示します。広重が最も得意とした江戸名所を約80点展示し、広重が描いた180年以上前の江戸の風景を觀賞していただきます。

風景画の名手として今日高い評価を受けている広重の画業は決して平坦なものではありませんでした。彼が風景画の世界を知るまでには様々な分野の作品を制作しています。文政年間(1818～30)には役者絵や美人画や版本の挿絵などを手がけ「若女絵師」として知られていましたが、文政末年頃の葛飾北斎の「富嶽三十六景」の成功に影響を受け、風景画の道に進むこととなります。北斎はその後も風景画を制作し、役者絵、美人画に続く新しい分野としての風景画(名所絵)の礎を築きました。広重は北斎の後を追うように天保(1830～44)初年「東都名所」(一般に一幽齋がき東都名所)を制作し好評を得て、天保4年に制作した「東海道五拾三次之内」(一般に保永堂東海道)は広重の代表作になりました。その後、江戸名所においても「東都名所」「江戸名所」シリーズを制作しました。さらに嘉永年間(1848～54)の番付「当代全盛高名付」に「にかほ豊国」「おしや国芳」「めいしよ広重」と載るようになり、この時期には風景画の第一人者として位置づけられています。晩年には大作である「名所江戸百景」(大判118枚)を制作していましたが、途中で没してしまいます。

図は現在の三越デパートの前身越後屋です。いまと同じ場所に店を構えていました。越後屋が松阪(三重県)から江戸の日本橋本町に出店したのは延宝元年(1673)。後に駿河町に天和3年(1683)に移転しました。ただしこの地域は両替商がほとんどであったため越後屋も呉服商に両替商を併設しました。道の両脇は越後屋で正面に富士山が見えま



「東都名所 駿河町之図」 歌川広重

す。越後屋の商売は店売りの「現金掛け値なし」が特徴でした。看板には「するが町 呉服物品々 越後屋」と書かれています。紺の暖簾には越後屋の商標が染め抜かれています。店の二階は海鼠壁、虫籠格子と火災に強い建物でした。道には棒手振、行商人、武家の子女、町家の女性などさまざまな人たちが行き交っています。この場所は江戸経済の象徴だったでしょう。

馬頭広重美術館 館長 市川 信也

【会 期】 平成28年1月11日(月)まで

【開館時間】 午前9時30分より午後5時まで
(但し入館は午後4時30分まで)

【休館日】 月曜日、祝日の翌日

【入館料】 大 人 500円(450円)

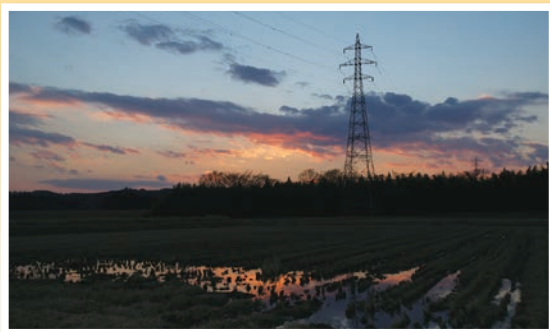
高・大学生 300円(270円)

※()は20名以上の団体料金。

※中学生以下は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

平成26年度 那珂川町観光写真コンテスト受賞作品



夕焼け賞「夕賞」

撮影者：岡 典子さん(北向田)

鉄塔のある北向田の農道からの夕焼けは、私にとって癒される最高の場所。水田への写り込みが妙だったので思わずシャッターをきりました。(岡さん)

